

議事録

会議名：令和7年度隠岐地域保健医療対策会議（地域医療構想調整会議）

日時：令和8年3月17日(火) 13:30～15:00

場所：隠岐合同庁舎6階会議室／島前集合庁舎第1会議室／Web(Zoom)

出席者：出席者名簿のとおり

○ あいさつ（隠岐保健所 岡所長）

平素より当所事業にご理解ご協力をいただき感謝

島根県では、保健医療計画の改定を令和5年度に行い、現行計画は令和6年度に開始し、今年度は現行計画の2年目となる

全ての県民が住み慣れた地域で安心して暮らせる社会を実現するため、良質かつ適切な保健医療福祉サービスの一体的提供を目指すという計画の基本理念のもと、住民、関係機関、行政機関が一体となり計画の推進を図ることとしている

本日の会議のメインの議題は、保健医療計画の当圏域における進捗状況の管理

会議の前半で報告、後半で人材確保をテーマとし関係機関の取組をお話いただき、今後の圏域の保健、医療、福祉の要となる人材の確保、育成、定着について、今後の連携強化に繋がればと考えている

忌憚のないご意見をお願いしたい

○ 議事

1. 正副委員長の選任（委員の改選：令和8年1月1日～令和9年12月31日）

委員からの意見なし

事務局案を提案・・・承認

委員長 隠岐の島町長 池田高世偉

副委員長 島後医師会 会長 高梨俊夫

※事務局案に対し、委員からの意見なし

2. 隠岐圏域の現状と課題 **資料1**

■ 事務局からの説明（隠岐保健所 堀野地域健康推進課長）

※ 委員からの意見なし

3. 島根県保健医療計画の進捗管理（評価・今後の方向性等）

1) 医療提供体制の現状、課題及び施策の方向

(1) 在宅医療 **資料2**

(2) 難病対策 **資料2**

(3) 医療提供体制 **資料2** **資料3**

■ 事務局から報告（隠岐保健所 宮原総務医事課長）

※ 委員からの意見なし

■ 高梨副委員長（議事進行）

11月の在宅医療部会で、「馴染みの関係の中で、誰もが安心して自分らしく暮らせる島の実現」のためにも、若いころからACP（人生会議）の理解に向けた取組の必要性を確認している

令和8年度に予定されている取組を隠岐の島町からご紹介いただきたい

□ 隠岐の島町 広江保健福祉課長

町では、地域包括支援センターで取組を進めていく必要があるということで、まずは住民に対し、ACPを知っていただくための働きかけの必要性を係内で話している

どのようにすれば住民に伝えていくことができるか、実際に最前線で携わっておられる方々と意見交換を図り、住民啓発のための媒体等作成の検討を始めたいと考えている

人生会議については、3つのステージ（健康なとき、高齢期になり病気がリスクあがったとき、重篤になっていくタイミング）で進んでいくと言われている

まずは、健康な段階での住民への啓発や情報提供等、知っていただくための働きかけを重ねていくことが大切だと思っている

□ サロン隠岐タンポポ 藤田世話人代表

ACPについては、がんサロンの中でも保健所や隠岐病院の方と話をしている
その時に出た意見だが、隠岐では高齢者のみの世帯があり、その方々とACPの話をしても家族との会話がどこまでできるのかという心配を皆さんとしている

先ほど広江課長が言われたように、段階においての話し合いが必要であり、できれば若い人たちにぜひACPのことを知っていただき、自分の親のこと、周りの高齢者のこと、病気を抱えている私たちからすると切羽詰まっており、延命治療のことなどいろいろな話が出てくるので、その辺のところをスピーディに進めていただくと非常に助かる

私たちも勉強はさせていただくが、早い方がいいと思うのでよろしくお願ひしたい

(4) 医療提供体制

■ 高梨副委員長

医療提供体制についての現状や課題、今後の取組についてご発言いただきたい

□ 隠岐広域連合立隠岐病院 徳家院長

医師確保については、大学等にご協力をいただいている程度確保できている
看護師、助産師に関しては、なかなか厳しい面もあるが引き続き確保に向けて取り組む
昨年度の病診一元化により、現在、都万と五箇診療所に隠岐病院から医師を派遣
今後も診療所と連携を図りながら、隠岐病院としても患者にとって利用しやすい体制づくりに努めたい

救急医療については24時間体制を確保、ドクヘリ等を活用して緊急搬送体制を整えている

テラドック（遠隔診療システム）を導入し、リアルタイムで大学の先生方とカンファレンスしながら搬送するかどうかを検討するなど、専門医がいなくても隠岐病院で専門的医療が提供できる体制を整えている

□ 隠岐広域連合立隠岐島前病院 白石院長

この4月から院長に再登板したが、その前にも20年ほど院長をした後、4年ほど参与という形で院長を降りて、兼務で島根大学総合診療医センターのセンター長として総合診療医の育成の仕事を行っていた

現在、島前全体で10名の医師が在籍（一番ピーク時には12名）

離島ならではの医師、総合診療医のPRを行ったことにより医師が結構集まってきて、その発信が緩むと医師不足になる状況

海士の医師の高齢化が進んでおり、そのような中、島大で総合診療医の育成をしていた医師はぎりぎりのところで確保できるが、看護師、薬剤師、ケアワーカーが足りなくなり、看護師確保ができないため、一般病床の取り下げがこの4年間で起こった

現在は、広報のこと教育のこと、外に向けてPRすることにより、10月に2名、2月に2名、4月に3名、6月に1名看護師を雇う予定

これまで島前病院には派遣看護師が5名おり、見かけ上は確保できており良い感じではあるが、同一労働同一賃金ではないというところから現場がざわつく、派遣看護師に教えるでも結局半年～1年で帰ってしまうということで文化が積みあがっていかない

島前病院に関しては、派遣看護師自体があまりうまく使えなくて、むしろ全体のムードとしてはマイナスだったなということで、看護師確保ができるようになったので3月で看護師の派遣は終了

ここからやっとスタートラインで、もう一度、島前病院をうまくやっていくようにしないとイケないと思っている

ケアワーカーが高齢化しており、ミャンマーから3名入っている

かなりいい感じでやっているが、日本語をもう少し上手になってもらいたい

ケアワーカーに関しては、ミャンマーから10人ぐらい確保していくしかないかと思っている

へき地の病院の運営はそう簡単ではなく、院長の後任については誰が考えてくれるんだろうと悩みながら、3年ぐらいで島前病院の経営を少し良くし、残り3年で後継者の育成を目指している

■ 高梨副委員長

続いて、隠岐病院と隠岐の島町立診療所の一元化から2年となるが、一元化の効果などを、隠岐広域連合からご発言いただきたい

□ 隠岐広域連合 野津副広域連合長

一元化の目標、メリットは医師の人員配置の柔軟性でその点は評価できている
医師の招聘において、選択肢が病院勤務、地域医療の診療所勤務に広がることで、どちらの医師にも興味を持っていただいているのではないかと考えている

患者にとっては、病院、診療所のどちらでも紹介してもらえらることもメリット

今年度、診療所も電子カルテを導入しており、病院と診療所の電子カルテの連携や患者情報の共有等がメリットだと思進めている

また、検査の外注、医療機器の使用も、診療所から病院への依頼により円滑に対応できる仕組みづくりを行いたい

デメリットは、医師のいる診療所が現在3カ所（都万、五箇、布施）あるが、平準化は目標ではあるが、逆に医師の個性（整形の患者も受け入れ可能等）もあるので全てを平準化することが難しく、バランスをどのようにとっていくかが今後の課題

■ 高梨副委員長

隠岐病院と島前病院から追加発言があればお願いしたい

□ 隠岐広域連合立隠岐島前病院 白石院長

島前の診療所でも2026年3月から電子カルテ導入

島前病院でも2026年度に電子カルテ導入予定

思っている以上に資金がかかり（1億5千万円くらい）、セキュリティ的なことが厳しく（セキュリティポリシーやネットワーク等）、けっこう手間暇、苦勞、お金がかかっている

□ 隠岐広域連合立隠岐病院 徳家院長

隠岐病院も同じで、経営が非常にひっ迫している

隠岐病院の将来のあり方ということで、在り方検討会を実施し、今の体制でいいかということを見なさんと協議しながら、将来に向け方針を決めている

人口統計等を含めて、今後の隠岐病院のあり方を検討しているところ

2) 健康なまちづくりの推進 資料4

■ 事務局から説明（隠岐保健所 堀野地域健康推進課長）

※ 委員からの意見なし

3) 人材の確保・定着の取組と今後の連携強化に向けて 資料5

■ 高梨副委員長

隠岐圏域では保健医療福祉の人材確保も大きな課題であり、昨年度もこの会議で各機関の取組をご報告いただいた

今年度も引き続き取組を共有し、今後の連携強化に繋がればと思いますので、各機関の取組をご報告いただきたい

※ 資料5により主な取組を各機関から報告

□ 隠岐広域連合立隠岐病院 徳家院長

- ・ 離島医療に関する魅力の発信ということで、毎年「隠岐フェス」ということで、研修医、学生を集めている色々なイベントを開催（かなり人気があり全国から応募多数）
- ・ 隠岐出身の県立大学の学生や医学生を対象に、毎年意見交換会を行って、隠岐に必ず戻ってきていただきたいと宣伝している
- ・ 県立大学と情報交換しながら、隠岐での実習を勧める等できるだけ隠岐の魅力を発信
- ・ 大学との連携ということで、県立中央病院、島大、日赤等に、毎年、医師の派遣や緊急搬送等の連携について依頼
- ・ 薬剤師については、県の方でも足りないということだが、隠岐病院でも充足しているわけではないので、今後も県に要望していく
- ・ なかなか成果がでるのは難しいが、持続的に息長くやっていきたい

□ 隠岐広域連合立隠岐島前病院 白石院長

- ・ 昨年の10月にホームページをリニューアル、SNSによる情報発信を強化
- ・ 病院から1分くらいの場所に職員宿舎（12部屋）を整備（令和8年6月完成予定）
- ・ 薬剤師（1名体制：産休育休中）については、隠岐病院からの応援もあったが、現在派遣薬剤師を雇用（半年～1年になる見込み、時給5,000円以上）
- ・ 時間外がつけば、それが全部積みあがり、いなくなったら文化にも繋がらないということで、見学の受入は行っているがなかなか体制としては難しい
- ・ 島前病院に関しては、人の確保と経営のことが問題

□ **島根県看護協会隠岐支部 高村支部長**

- ・ 進学ガイダンスや看護の魅力発信など中高生を対象に取り組んでいるが、今年度は学校から進学ガイダンスの依頼がなかったため未実施
- ・ 支部の研修会を企画し、各職場の看護師の質の向上を目指す取組等を実施
- ・ 看護協会、ナースセンターの取組などを発信し、就労促進をPR

□ **島根県訪問看護ステーション協会隠岐支部 齋藤支部長**

- ・ 隠岐の島町出身の看護学生の「訪問看護体験」の受け入れ（お盆帰省中、8/13 半日）
- ・ 看護協会主催の「中山間地域等見学ツアー」への協力（冊子作製、事務所見学 8/19）
- ・ 「令和7年度新卒等訪問看護師育成事業」の受け入れは、離島（実習期間が2月3月）ということもあり学生とのマッチングが難しく未実施

□ **海士町 大江町長**

- ・ 離島医療の魅力発信ということで、過去3年間、島前地域で離島医療会議を開催
- ・ 島前病院の白石院長先生にもご協力を仰ぎ、こうした会議を通じて医師や専門人材のネットワークづくりに努めている
- ・ 第4回の今年は、三重県鳥羽市で開催し、住民の離島医療に関する関心の高さがうかがえた（多数来場、Web約150人参加）
- ・ 実際の医師確保には繋がってはいないが、こうした取り組みを通じて関係性を深めていきたい
- ・ 歯科医師や介護人材については、島内の民間事業所に委託し、島内見学ツアーを開催しながら歯科医師は2名確保することができた
- ・ 介護人材については、年度によって採用できたりできなかったりするが、こうした見学ツアーもひとつの関係人口を築くという点で大切に、来場者と向き合っているという状況

□ **西ノ島町 坂栄町長**

- ・ 看護職及び介護職の人材確保について、養成校への訪問、養成校からの職場体験や実習の受け入れに関して、島前病院と一緒に「ぜひ、隠岐島前病院へ」ということで、松江及び出雲市内等へ回らせてもらっている
- ・ 島前病院と一緒に、医学生、看護学生、他で働いている若手の看護職の方との交流会を定期的に開催
- ・ 看護職と介護職を対象に、移住促進ツアーを開催したが、感触はありつつも「移住」となるとハードルがまだ高いように感じた（3年目となる令和8年度も実施予定）
- ・ 看護職と介護職共通で「U・Iターン者就業支援金」を用意しており、該当の方に支給している

□ **隠岐の島町 広江保健福祉課長**

- ・ 医師確保、学校連携については、県による地域医療実習への協力
- ・ 看護職についても県立大学の学生を対象とした「フィールド学習」への協力、島大や県立大学向けの就職説明会へ参加
- ・ 隠岐の島町社会福祉協議会が、町内の中学生を対象に「介護の基礎的講座」を全校で実施
- ・ 町としては、介護人材の確保について、町内事業者向けに処遇改善の費用を負担
- ・ 福祉体験交流事業として、養成校の学生を島内に招いて事業所と隠岐の島町を知っていただくための取組を実施
- ・ 外国人材の確保による1年目に係る経費を単独補助（新規）
- ・ 養成校の学生の受入事業については、すでに学生の卒後の進路がほぼ決まっているという状況等もあり、令和8年度は見直し予定

□ **隠岐広域連合 野津副広域連合長**

- ・ 隠岐の島町社会福祉協議会が主体となって、隠岐の島町内の中学生を対象に、介護の基礎的講座を実施（高齢者体験や介護体験もあわせて実施）
- ・ 島内で開催された研修のスクーリングに、広域連合が提携している専門学校の養成講座を完了された指導者の方（島内の介護職場に勤務）を講師として派遣（令和8年度も継続予定）

□ **隠岐保健所 宮原総務医事課長**

- ・ 医師確保については、島根で働く医師を「呼ぶ」「助ける」「育てる」の医師確保対策の3本柱で各種対策を実施（しまねの医師支援ガイドブック2025）
- ・ 歯科衛生士等については、職業紹介事業や地域歯科医療体験ツアー等を実施、薬剤師については、薬剤師を目指す高校生のためのセミナーの開催や奨学金返還助成制度、薬

学生等への病院見学にかかる旅費の助成などを行い、県内就業を促進

- ・ 看護職については、「県内進学促進」「県内就業支援」「離職防止・再就業促進」「資質向上」の4つの柱で各種対策を推進
- ・ 中山間地域・離島の看護見学ツアーを実施（8/19～20 隠岐圏域9名参加：隠岐病院、隠岐島前病院、訪問看護ステーション等を訪問）
- ・ 島根県看護の職場紹介フェアの開催（3/1 隠岐島前病院が出展）
- ・ 介護の仕事の魅力を知ってもらうために、「中高生夏休み介護の職場体験事業」や「しまねの福祉・保育JOBフェスタ」等を実施
- ・ 介護福祉士等の学生に修学資金の貸付を行うことによる県内施設への就職支援や外国人介護人材の受入れに係る支援を実施
- ・ 介護現場における生産性向上や人材確保の取組を支援するため、「介護現場革新サポートセンターしまね：介サポしまね」を運営

■ **高梨副委員長**

各機関からの報告があったが、何か質問等あればうかがいたい

隠岐圏域として何か協働で実施できそうな取組など意見があればお願いしたい

□ **隠岐広域連合立隠岐島前病院 白石院長**

看護師の7割ぐらいがIターンで普通だと考えると帰ってしまうため、人手が足りなくなり一般病床を現在取り下げている状態

県が動いてくれて、県立中央病院のサポートによりこの3月まで15ヶ月、3か月交代で5人の看護師が来てくれた

アンケート（匿名）を取ってみたところ、県立中央病院にとっても非常にいい体験で続けるべきだという答えが返ってきた（県や知事にも報告し継続を要望）

一般病床を取り下げるということは結構なことだとは思いますが、継続的に他のところも看護師不足の状況の中、島前病院だけに派遣することはできないということで、この3月で終了が決定

一方で、全ての地域で看護師が足りない状況の中、看護師養成学校もなぜか松江の準看は結構ほぼフルマッチでいけるが、普通のところは欠員している

大学病院と県立看護大学の2つだけマッチしている中で、看護師だけに限らないが、県職員の県立中央病院等で地域支援枠的なものを確保していただいて、お金は出すのでそういう形で送るみたいな仕組みを作っていただきたい

もちろん県庁には要望しているが、個人の院長が頑張るとか事務長が頑張るとかで解決する問題では多分ないので、隠岐病院も隠岐島前病院も医療としては残さないといけないと思うと、ぜひ、保健所経由でもあげていただくと完全な解決にはならないが非常にいいと思う

この15か月、派遣看護師が来てくれて島前病院にとってもすごく良かったので、ぜひそういうことをお願いしたい

■ **高梨副委員長**

非常に重要なご意見なので、県の方もしっかり考えてもらいたいと思う

資料の記載はありませんが、隠岐歯科医師会の取組は何かあればうかがいたい

□ **隠岐歯科医師会 木村会長**

にしのしま歯科としては、今年度は実施していない

歯科医師会としてはホームページ上での募集や講演会は実施しているが、やはり人材確保は難しく、どこの病院でも大変のようだ

■ **高梨副委員長**

海士町では、民間事業所へ委託して人材確保をされているが、具体的にはどのような取組か、もう一度うかがいたい

□ **海士町 大江町長**

国の補助金の活用や町の単独予算を用意し、地元の大企業の研修を扱う民間企業に委託し、年間を通じて6～7回実施している

海士町にヒットした人をお招きし、島内見学や交流会などを通じて関係性を深めていくという取組を定期的に4、5年実施している

専門人材の確保に繋がる年もあれば繋がらない年もあるが、継続して続けていくことによって、広がりを持たせていきたいと考えている

■ 高梨副委員長

人材確保がますます困難になっていくため、それぞれの機関で確保の取組を継続していただくことが重要であり、こういった会議の場などで各機関の状況を共有しながら、連携して取り組んでいきたいと思っているのでよろしくお願ひしたい

議事はすべて終了したので事務局にお返りする

<情報提供>

・地域医療構想について **資料6**

■ 事務局より説明（隠岐保健所 岡所長）

- ・ 現在国では、2040年を見据えた新たな地域医療構想について検討が進められている
- ・ 現行の地域医療構想では、2025年に団塊の世代が後期高齢者となるところをゴールとして、特に病院の病床数に注目されていた
- ・ 新たな地域医療構想では、入院医療だけでなく、外来医療、在宅医療、介護との連携等も含めた、医療提供体制全体を含むものとして検討が進められおり、令和7年度中には国の方から策定についてのガイドラインが発出される見込み
- ・ 県の方では、令和8年度から構想の策定作業につくという見込み
- ・ 新たな地域医療構想では、病床機能等のところでも「包括期機能」というような新たな区分等についても検討されている
- ・ 精神医療についても、現行は対象外だったが、将来を見据えて新たに地域医療構想に位置付けるということで検討が進められている
- ・ 最終的に最も遅くても2028年度までに都道府県で構想を策定するよう国から示されているが、県のスケジュールについては現在検討中
- ・ 令和8年度は、保健医療計画（3年目）の中間見直しと、保健医療計画と整合性をとることとされている介護保険事業計画の策定も重なる年である
- ・ 精神医療については、もう少し時間をかけて検討する必要があるとして、令和8年度中に国からガイドラインが発出されるよう検討を進めるということで、少しタイミングがずれて地域医療構想の策定が進められる見込み

○ 閉会あいさつ（隠岐保健所 岡所長）

人材確保等について、様々なご意見をいただき感謝

隠岐地域の現状やいただいたご意見等については、しっかり県庁とも共有していきたい

地域医療構想について、2040年という日本全体で人口減少が進み、担い手不足も進む状況

日本の中でも各地域によって人口構造や医療等の提供体制が異なるため、隠岐地域の実情に即した構想（計画）になるよう、圏域においても本会議や在宅医療部会等で情報提供をさせていただき、皆様からのご意見をいただきながら策定作業を進めていきたい